

## 第17回 薬物乱用防止教育研修会 報告書

中村芳生

平成20年8月24日(日)

於 国士舘大学世田谷キャンパス

柴田会館3階研修室

○ 開会式(挨拶): 日本学校薬剤師会会長 田中俊昭先生

○ 基調講演 : 薬物乱用防止の世界の動向

厚生労働省医薬食品局監視指導課麻薬対策課長補佐 安田尚之先生

薬物乱用教育の重要性について、留意すべき点として、欧州では薬物乱用者は社会の被害者であり乱用者にも人権の配慮が必要であると言う考え方があるが、日本では薬物不寛容政策を取っている。また、民法の改正(20歳⇒18歳)が取りざたされているが、タバコ、アルコールの開始年齢は出来るだけ遅くすることが必要である。

○ 教育講演 : 我が国及び諸外国における薬物乱用防止教育の考え方進め方

神戸大学大学院人間発達環境学研究科教授

石川哲也先生

我が国の薬物乱用防止教育の方法として4つの方法が行われてきた。

- (1) 科学的かつ正確な事実を豊かにする学習による方法、
- (2) 脅しのテクニックを用いる方法、
- (3) 肯定的自己概念を高めることで行動の変容を促す方法、
- (4) スキルを身につける方法である。

健康教育による働きかけを考える際に、健康行動に関わる要因を三つのカテゴリーに分類することが有効である。一つ目のカテゴリー(先行因子)は、ある行動をとろうという動機付けに関わる要因であり、本人の知識、態度、信念、価値観などが含まれる。二つ目のカテゴリー(促進因子)は、その動機を実際の行動へと結び付けていくことを促す要因であり、本人の健康関連スキルなどが含まれる。三つ目のカテゴリー(強化因子)は、行動の継続に関わる要因であり、友人、家族、教師など周囲の人の態度や行動などが含まれる。

### 薬物乱用防止に関する指導とライフスキル教育

ライフスキルとは、WHOにより日常生活で生じる様々な問題や欲求に対して、建設的かつ効果的に対処するために必要な能力であると定義されている。

### △アメリカのライオンズ・クエストプログラム

教育において強調すべき点

ほとんどの若者は薬物を使用していない。

区別化しない

不適切な教材

言い訳、口実を与えるような

入手、調整を教えるような

有名人などの例を用いたロールモデル（依存症の患者の更生復帰）

△カナダオンタリオ州の薬物乱用防止教育

△イギリスの科学における薬物乱用防止教育

**Key stage 1** : 5~7 歳   **2** : 8~10 歳   **3** : 11~13 歳   **4** : 14~17 歳

児童生徒には次のことを教えられるべきである。

ステージ 1 : 人間と動物

医薬品としての薬の役割について

ステージ 2 : 人間と動物

(健康)

喫煙、飲酒、薬物の人体への影響とそれらがいかに個人の健康と  
かかわっているかについて

ステージ 3 : 有機体としてのヒト

(健康)

アルコール、有機溶剤および他の薬物の健康影響

ステージ 4 : 有機体としてのヒト

(健康)

身体の機能としての有機溶剤、アルコール、タバコ、そして他の  
薬物の影響

△ 台北の小学校では尿検査をしている

△

○ 研究講演 : 東京都における今後の薬物乱用対策の推進について

国士舘大学非常勤講師

原田幸男先生

○ 実践報告と意見交換 薬物乱用の根絶を目指してどのように取り組めばよいか

コーディネーター

東海大学医学部公衆衛生学講師

逢坂文夫先生

実践報告者

小学校における薬物乱用防止教育 豊島区立朋有償学校教頭

大竹ヨシ子先生

中学校における薬物乱用防止教育 川口市立榛松中学校養護教諭

岩澤奈々子先生

高等学校における薬物乱用防止教育 東京都立世田谷泉高等学校教諭

小田原妙美先生

学校における薬物乱用防止教育 鹿児島県学校薬剤師会会長

原留淳一先生

○ 閉会式 : 健康行動教育科学研究会会長

内藤昭三先生